

編集・発行者
流通経済大学社会学部教授龍崎孝

この新聞は、思いのまま、流通経済大学の中で起きたことを「勝手に」取材し、気楽に編集して発行するメディアです。
<略称: つなしん、と呼んでください>



2023年(令和五年)
11月27日月曜日
第3号

「であう広場特集」速報版

市民、学生ら六百人が、流経大で新たな「であい」

冷雨の中、「であう広場」で熱いトーク

松戸市の流通経済大学(上野裕一学長)新松戸キャンパスで二十六日、市民と学生、アート関係者が集うイベント「であう広場」が開かれ、およそ六百人がトークやパフォーマンスを通じて交流を深めた。

倉出・春風亭昇々さんらも参加

同イベントは流経大が毎年開催している障がい者のアート作品を紹介する「であうアート展」のスペシャルイベントとして催された。イベントは、キャンパス入



春風亭昇々さん、中嶋さんと記念撮影する学生たち

口の大階段前のスペースに、人工芝を敷き詰めた特設会場を舞台に行われ、流経大ダンス部、吹奏楽部の演技、演奏に加え、付属柏高校新体操部の演技「アラジン」などが披露された。また「であうアート展」にかかわってきた東北地方から、東北障がい者芸術支援機構や東北巡回展で訪れた若手



「生活工房」の三宅さんを囲む仙台育英、成城高校生ら

県釜石市の関係者、また流経大のパートナーといえる障がい者支援施設「生活工房」の三宅昌子理事長らがトークゲストとして参加。さらに松戸市出身の落語家、春風亭昇々さんや車いすインフルエンサーの中嶋涼子さんが会場を盛り上げた。今回はイベントの企画、演出、運営のすべてに流経

大生が参加。この日は午前七時からテント設置や椅子の移動などを行ったほか、プログラムの進行、映像記録の撮影も学生が担った。またベトナム人留学生による文化紹介コーナーや陸上部員による大縄跳び大会など、準備段階から含め学生およそ七十人が関わった。また会場設営やイベント進行では東放学園(新宿区)の学生十二名も協力、互いに寒さに震えながら、学校を超えた連携が行われた。

仙台育英成城校生がアート展鑑賞

スペシャルイベントが行われた二十六日、仙台市の仙台育英高校と新宿区の成城高校の生徒、計五人が、「であうアート展」を訪問、展示会の意義やアートの力の可能性などを学んだ。両校は来年度に流経大と連携して「であうアート展」をそれぞれ開催する考えで、仙台育英高校はインターアクト部の三年生、成城高は二年生の生徒会役員が午後からアート展を鑑賞したほか、イベント「であう広場」のトークショーにも参加、両校の活動などを松戸市民に披露した。

中嶋さんがエール

「であう広場」に参加した車いすインフルエンサーの中嶋涼子さんが、会場に訪れていた流経大受験生を激励した。



小学四年生で下半身が不随になった中嶋さんは、トークショーの中で映画「タイタニック」を「一度見る中で、再び生きる力と夢を得た」、などと自らの体験を話し、参加者は身じろぎもせず聞き入った。その後、会場にいた車いすの受験生を見つけると近寄りあいさつ、およそ二十分にわたって懇談、激励した。

「であう広場」に集った皆さんの交流の様子は別途、グラフィックとして掲載します。